

第1887回埼玉県教育委員会定例会

- 1 日 時 令和2年7月27日(月) 午前10時開会
午前10時55分終了
- 2 場 所 埼玉県教育局教育委員会室
- 3 出席者 高田教育長、上條教育長職務代理者、後藤委員、伊倉委員、遠藤委員、石川委員、萩原副教育長、佐藤教育総務部長、日吉県立学校部長、関口市町村支援部長、豊田県立学校人事課長、竹井特別支援教育課長、阿部福利課長、片桐市町村支援部参事兼小中学校人事課長
栗原書記長、古澤書記、森山書記
- 4 会議の主宰者 高田教育長
- 5 会 議
- (1) 前回議事録の承認
- 全出席委員異議なく本件記載どおり承認
 - 高田教育長が、後藤委員を議事録の署名者に指名した。
- (2) 議事
- 第58号議案 埼玉県立特別支援学校管理規則の一部を改正する規則について
上程
- 豊田県立学校人事課長 (提案理由、現行規則の内容、改正の内容及び施行期日について説明)
- 後藤委員 こちらの議案については、一切異論はありません。1点お聞きしたいのは、定員数についてです。今、埼玉県内の特別支援学校、特に知的障害の学校においては、どの学校も定員数をオーバーしていて、学校現場では大分混乱を来していると思います。学校訪問をして目の当たりにすることもあります。定員数をどのように定めたのか、また、今後、定員数をどのくらい上回ることが現時点で想定されるのか伺います。

竹井特別支援教育課長 高校内分校の定員数48人についてです。高等部1学級当たりの定員数は8人と規定されていまして、1学年当たり2学級で、それが3学年で48人と定めています。現在、生徒が増えている中で、どこまで定員数を増やせるかについてですが、高校内分校については、高校の空き教室を活用しているため、現時点では、48人が適正な定員数と見込んでいます。

後藤委員 定員数は、子供たちが教室の中でしっかり学べる環境を考えての人数だと思います。したがって、今後、この定員数を超えないように、若しくは超えるのであれば、しっかり学べる環境の整備を進めていただきたいと思います。

○ 全出席委員異議なく本案原案どおり可決

(3) 報告事項

特別支援学校におけるICTを活用した学びの実践研究について

竹井特別支援教育課長 (提出理由、目的、研究期間、事業内容及び主な実践研究の内容について説明)

伊倉委員 映像を見せてもらって、とても良く理解できました。これは2年間の実践研究ということですが、映像で拝見しましたICT機器は、今後どのように活用されるのでしょうか。

竹井特別支援教育課長 ICT機器の整備につきましては、急激に進んでいる状況にあります。ICT機器をいかに活用できるかが、大きな課題だと考えています。ICT機器の活用にも長けている特別支援学校の教員でプロジェクトチームを作りまして、現在、今後の活用に向けて検討を進めているところでございます。

伊倉委員 肢体不自由の生徒が視線で文字を入力していたのを見て、今後、社会に出て就労につながる大事なものだなと思いました。こういった機器は、既に埼玉県で所有しているのでしょうか。各学校にあるのでしょうか。

竹井特別支援教育課長 今後、タブレット端末を1人1台整備する中で、視線入力装置などの機器やアプリも含めて整備したいと考えています。

伊倉委員 子供たちが社会に出て、こうしたICT機器を使いこなしてほしいと

強く感じました。資料にもありますが、普及を進めてほしいと思います。

遠藤委員 伊倉委員のお話のとおりだと思います。ICT教育は、今、どんどん進められています。社会の変動が非常に激しくて、それに追いついていかないと社会に取り残されてしまいます。そういった中で、ICT機器を活用することによって、自分たちの新たな能力を開発できることが、かなりあるのではないかと思います。そういうことを期待しています。頑張って進めてほしいと思います。

上條教育長職務代理者 スタジアムをバーチャルで見学する様子などは、以前見た時にも非常に感動しましたが、今回映像を見て、様々な形でICT機器をうまく活用できる手段があるのだと痛切に感じました。とりわけ、視線入力映像がありましたが、自分に合ったコミュニケーション手段についてです。NHKの番組でも紹介されていましたが、重度の自閉症スペクトラムの東田直樹さんは、キーボードがあればコミュニケーションが取れて、自ら本を出版されています。特別な手段があれば、普通の方と同じような発想ができ、コミュニケーションが取れるということを、我々では想像が付かないような形で、実現しています。これはお母さんが発見したそうですが、そういったことを思い合わせると、それぞれの子供たちが持っている本当の可能性のようなものを、突発的に発見できることもあるんだ、ということが実感できます。したがって、様々な形で、こういった取組を進めてほしいと思います。また、他県や東京都など他の都道府県でも同じような研究をしていると思いますし、教育の専門家の中には、こういった研究をより実践的に行っている方もたくさんいらっしゃると思います。そういった研究成果も合わせてみて、より効果的に進めてほしいと思います。もちろん、既に行っていることもあるとは思いますが、そういったことも含めて、より一層進展することを期待します。

竹井特別支援教育課長 上條委員からお話がありました他県との連携につきましては、先ほど御説明しました実践研究報告会に他県の方にも来ていただいて、いろいろなネットワークを構築しているところです。他県の事例を参考にして、お互い切磋琢磨しながら連携していきたいと思っています。

後藤委員 学校現場でも見ましたが、改めて映像でまとめて見ると、特別支援学校におけるICT機器は必須で、活用しなければならぬと実感しました。ICT機器の活用というと、コロナ禍においては子供たちの学習保障に捕らわれがちですが、特別支援教育においては、一人一人の特性に応じたICT機器の活用がとても大切と感じました。特に、コミュニケーションの手段だったり、教室に通えない子が在宅でタブレット端末を使って教育を受けたり、疑似体験・疑似環境を作る手段だったり、様々な活用があると感じました。また、ドローンを使ったプログラミング教育がありましたが、プログラミング教育まで行えることを考えると、更に幅の広い、一人一人の特性に合った教育がICT機器の活用によって実現できると思いました。突き詰めていくと、デジタル教科書だけでも今後は対応できるのではないかと思います。可能性については、どんどん追求してほしいと思います。また、教材の共有や成功事例の積み重ねについてです。クラウドの仕組みを使って、クラウドの中のいろいろな教材から、児童生徒一人一人の特性に合った教材を、先生方が自由に選べるようになれば、先生方が教材を作る手間も掛からず負担がないですし、児童生徒一人一人の教育の充実につながると思います。他県との連携のお話がありましたが、県内の先生方の連携も進めてほしいと思います。

竹井特別支援教育課長 県内の教員の連携につきましては、総合教育センターに教員誰もがみられるサイトを立ち上げることなど研究を進めているところでございます。

石川委員 7月に入って、特別支援学校を数校訪問しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあって、通学ができない子供たちが、ZoomやGoogle Classroomを使って、映像を見ながら楽しそうに話をしている様子を拝見しました。既に学校現場では、先生方の努力もあって、ICT機器の活用が進んでいると思いました。特に、病弱で毎日通学できない子供たちにとって、非常に有効だと感じました。特別支援学校の先生方のお話を聞いて、改善できないかなと思ったことは、スクールバスの通学時間についてです。通学時間が1時間を越える、場合によっては1時間半も掛かる子供が結構いると聞き

ました。その時間は先生もいないですし、バスには運転手と添乗員だけで、子供たちにとって長い時間ではないかと思います。そういう中で、タブレット端末と通信環境があれば、通学時間を有効に使えるのではないかと思います。個人的な思い付きのところはありますが、検討できる機会があれば、検討していただきたいと思います。

竹井特別支援教育課長 今後、1人1台タブレット端末を整備していきますが、我々の発想にはありませんでした。良いヒントを頂きましたので、幅広い場面での活用について検討していきたいと思います。

(4) 次回委員会の開催予定について

8月11日(火) 午前10時

<非公開会議結果>

第59号議案 埼玉県教職員健康審査会委員の委嘱について

埼玉県教職員健康審査会委員の任期満了に伴い、埼玉県教職員健康審査会規則の規定に基づき、15名の委員を委嘱することを決定しました。

第60号議案 教職員の懲戒処分について

詐欺行為を行った県立川越総合高等学校の男性主任実習助手(53歳)に対して、3月間停職する懲戒処分を決定しました。

第61号議案 教職員の懲戒処分について

非違行為を行った川口市立戸塚南小学校の男性教諭(33歳)に対して、3月間停職する懲戒処分を決定しました。

第62号議案 教職員の人事について

所沢市教育委員会学校教育課学校教育指導担当主幹兼健やか輝き支援室長吉川誠を、7月28日付けで所沢市立中央中学校長として発令する人事案を決定しました。